JAUW 神奈川支部便り NO. 86

2022 年 7 月 31 日 発行

（一社）大学女性協会 JAUW 神奈川支部

１．報告

・全国総会が 5 月 21～23 日に岡山で開催

総会に、支部から 7 名（穐田、市川、柏木、菅原、鷲見、西村、渡部）が参加しました。懇親会には会員 80 名余りが参加、岡山県知事、岡山市長によるご祝辞をいただき、県名産の食材を活かしたお料理を頂戴しながら、和やかな時間を共有しました。総会午前に行われた、岡山支部会員の教え子である歴史学者の磯田道史氏による講演は、一般参加者もあり満席でした。午後は全員参加のワークショップを通じて、JAUW 組織の強みと弱みを考えました。最終日の研修旅行では竹久夢二ゆかりの場所をご案内いただきました。全日程を通じて「晴れの国・岡山」ならではの好天と、温かいおもてなしに恵まれて、会員同士が直に交流できる良さを実感しました。

・2022 年度も神奈川支部会員が本部で奮闘

市川（副会長）、渡部（会計）、穐田（広報担当）が理事就任。菅原科学研究奨励委員会委員長は再任され、6 月 4 日には守田科学研究奨励賞贈呈式・講演会を実施。鷲見文化事業委員長も再任、同委員会主催のコンサートが、駒込六義園隣の今井館聖書講堂にて 11 月 26 日午後に開催されます。チケット購入やお問い合わせは、本部事務所へお願いします。

・県内大学で国内奨学生の募集を開始

今年も県内 12 大学に要項を発送しました。支部締切は 8 月末。一般奨学金応募者が複数の場合には書面審査を行い、1 名を本部に推薦します。審査にご助力をお願いするときは、どうぞご協力ください。

・第 2 回支部例会を実施

7 月 16 日午後 1 時～4 時、かながわ県民センターにて第 2 回支部例会を出席者 5 名で行いました。その前半に開催した「日本舞踊のこころ」と題した西村寿美子会員によるプレゼンテーションには、東京支部からも 6 名の参加者がありました。詳しくは次頁の鷲見委員長による報告をご覧ください。

2. 会計からのお知らせ

今年度の会費（8,000 円）は、下記のいずれかにより納入願います。納入後に会員証をご送付。

１）ゆうちょ銀行口座へお振込の場合

① ゆうちょの口座をお持ちの方は、口座間の振替が無料です。その際は次の振り込み先へ

記号：１０９６０ **番号**：１３９４０８５１

口座名：（一社）大学女性協会　神奈川支部

② 他銀行から振り込みの場合は、下記の口座番号をお使いください（銀行により要手数料）

店名：〇九八（ゼロキュウハチ）**店番**：０９８

普通預金、　口座番号：１３９４０８５

加入者名：一般社団法人　大学女性協会
神奈川支部

２）横浜銀行口座へお振込の場合

店名：横浜駅前支店、 **店番**：３８３

普通預金、 口座番号：１３０２９６３

加入者名：大学女性協会神奈川支部
支部長　穐田信子

3. その他のお知らせ

・CSW 若手参加者募集の締切は 9 月 22 日。JAUW の HP に募集要項があります。

・副題を「ユースの視点から見直そう　これからの日本」とする全国公開シンポジウムが 10 月 22 日に対面とオンラインで開催されます。会報同封の案内をお読みいただき、是非ご参加ください。

・3 年に一度の GWI 総会が、11 月 11 日～13 日にオンラインで行われます。メイン・テーマは、「成長を超えて持続可能性へ」。チラシや HP をご参照。

・支部主催の奨学生候補者のお話を聞く会は、11 月実施を視野に考えていきます。

「日本舞踊のこころ」にふれたひと時

鷲見八重子

7月16日（土）午後、かながわ県民センターにて久しぶりに対面の支部会が開かれ、例会の前に、西村寿美子さんから「日本舞踊のこころ」と題してお話を伺い、実演のDVDを拝見しました。知らない世界を案内していただきながら交流を深めたいという企画で、支部会員5名に加え東京支部から6名の方が参加されました。

西村さんは3歳より花柳徳兵衛師に師事し、17歳で家元花柳寿輔師に名取の資格を許可され教授の証を授与されます（昭和33年）。名取名は、花柳　衛扇（はなやぎ　えせん）。以来、数多くの舞台を踏まれただけでなく、教授として国内外の弟子を育てて来られました。日舞を習い始めたきっかけは、戦地へ赴く父上が、身体が弱かった娘を案じて何か運動をと言い残されたのでした。日舞は良家の子女のお稽古ごとの一つでもありました。

花柳流は、坂東流や藤間流と並び5大流派のひとつ。能（静）と歌舞伎（動）に継承された形（かた）を基本としつつ、さらに花柳界を愉しませる進取の趣向（しぐさ）を多様に取り入れ、華麗な舞台芸術として明治から現在まで多くの庶民に親しまれてきました。「日本舞踊のこころ」とは、虚々実々、架空の世界と人間の現生が幾重にも重なりあった時空に遊ぶこと、と言えるかもしれないと思いました。

舞踊をささえるお囃子には長唄、清元、常磐津、浄瑠璃、義太夫などあります。お話のあと義太夫「信田妻道行」（しのだづま みちゆき）と、長唄の名曲「角田川」（すみだがわ）を観ながら、その違いを体感しました。

信田妻道行は、恋人を亡くした男が信田の森にやってきて若い娘（キツネの化身）と結ばれる異類婚姻譚による物語です。「つるの恩返し」と同じように別れの時が来るのですが、娘の恥じらいや哀しみは、招き猫のような手首のしぐさでキツネと分かり、まさに虚と実の挟間を花柳衛扇師は美しく演じきられ、おもわず固唾をのんで惹き込まれました。

信田妻道行

信田妻道行

「角田川」は歌舞伎、文楽でもよく演じられます。行方不明となった幼い梅若丸を探してはるばる京から隅田川までやってきた母親が、渡し船の船頭から、人買いに連れられてきた子がこの河原で死んだと聞き、その子こそ我が子と知る物語です。朗々とした台詞のやりとりが舞踊の緊張感を高め悲劇の大団円にいたります。凛として気高い西村師にただただ見とれてしまいました。清々しいひと時をありがとうございました。

角田川